



Wilhelm・Conrad・Röntgen
ヴィルヘルム・コンラート・レントゲン
1895年 X線発見

放射線だより

2023年6月
No. 20 (隔月発行)
担当：馬場俊明

from Radiation House

～放射線治療による緩和ケアについて～

・痛みをはじめとする身体症状の改善やQOL(生活の質)の向上を目的として行われる放射線療法のことを、「**緩和的放射線療法**」といいます

(American Cancer Society. American Cancer Society's Guide to Pain Control 2004)

・今ある症状だけでなく、今後起こりうる症状についての対応も含まます



緩和的放射線療法により、緩和が期待できる症状・病態例

原発部位による症状・病態	
脳	頭痛、けいれん、神経症状
頭頸部	疼痛、出血、嚥下困難、息切れ
肺	疼痛、咳嗽、血痰、閉塞性肺炎、呼吸苦、気管支閉塞、上大静脈症候群
食道・胃	嚥下困難、嚥下時痛、出血、閉塞
婦人科	疼痛、出血、尿路閉塞、水腎症
泌尿器	疼痛、血尿、尿路閉塞
直腸	疼痛、出血、しぶり腹、直腸閉塞

原発部位による症状・病態	
脳	頭痛、けいれん、各種神経症状
骨 脊髄圧迫	疼痛、脊髄圧迫による麻痺、病的骨折予防
皮膚 軟部組織	嚥下困難、嚥下痛、出血、閉塞
眼窩	疼痛、複視、視力低下、失明
肝・脾臓 副腎	疼痛、早期腹満感

～緊急性のある症例は即日治療開始いたします～

放射線治療が役に立つ代表的なケース

背骨への転移により起こる麻痺を改善する

脊椎(背骨)へ転移した腫瘍により脊髄神経が圧迫され、痛み・麻痺を引き起こし、QOLを著しく低下させます。一般に放射線治療により痛み・麻痺が改善します。

完全麻痺後は効果が一気に低下します。
照射前に歩行可能→80%歩行可能
照射前不全麻痺→40%歩行可能
照射前完全麻痺→7%歩行可能



骨への転移による痛みを和らげる

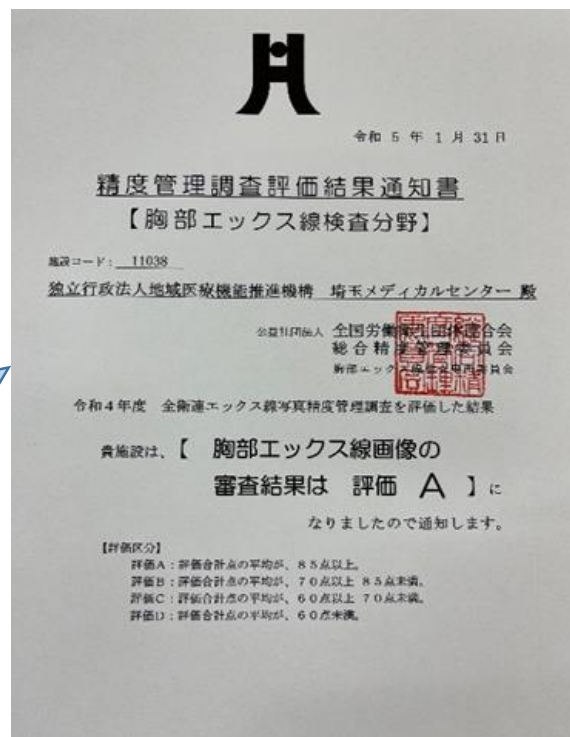
約60～90%の症例で痛みの緩和が期待できます。鎮痛薬の増量なしに痛みが完全に消失するのは、約20～40%程度と報告されています。除痛効果は数日程度で認められることもありますが、4～8週で効果が最大になると考えられています。放射線終了時に疼痛緩和が得られない場合でもその後に痛みが和らぐことが期待できます。

がんの進行にともなう様々な痛みや症状について放射線治療により緩和できることがあります。がんに伴う諸症状が見られる時・病巣によりQOL低下が予想される際には放射線治療をご検討ください。

～放射線治療の適応があるかどうか迷ったら、まずは放射線治療科へご相談ください～

胸部健診の精度管理調査評価にて 「A評価」をいただきました。

- ☑撮影条件
 - ☑画像の表示条件
 - ☑解剖学的指標による評価
 - ☑物理的指標による評価
 - ☑画像サーバーでの処理 等…
- 様々な観点から審査を行います。



第三者機関である「全国労働衛生団体連合会」が管理・審査を行っている精度管理調査評価にて当施設は「A評価」をいただきました。

これは胸部X線検査の撮影技術（画像処理技術を含めた総合技術）および写真画質のクオリティーや検査を行う診療放射線技師、診断決定を行う読影医、撮影装置等が特に優れている施設に与えられるものです。

健診胸部X線検査の受診は病気の早期発見に繋がります。
最新の装置などを使用し被ばく低減にも努めています。

(文責: 滝田)